

令和4年2月

外務省地球規模課題審議官組織

これまでの経緯

■2020年9月の第75回国連総会一般討論演説において、菅前総理から「いま、新たな時代の人間の安全保障の考え方に立って、様々な危機を乗り越え、SDGs達成をはじめとした地球規模の課題への取組を加速する。そのために、私は、世界の英知を集め、議論を深めていくことを提案」した。

■上記の総理の表明のフォローアップとして、UNDP(国連開発計画)と協力し、国際的なメンバーによる議論の場として、**ハイレベル諮問パネル**を設置(武見敬三参議院議員が共同議長として参加)。**人間の安全保障に関する特別報告書作成**に向けて議論が行われ、2022年2月8日にUNDPにより公表された。

特別報告書の内容

<表題>人新世の時代における人間の安全保障への新たな脅威: より大きな連帯を求めて

■人新世^(注)における人間の安全保障への新たな脅威として、技術、暴力的紛争、不平等、保健の4つの脅威を取り上げ、これらの脅威に対処するために、**保護と能力強化(エンパワーメント)**という伝統的な人間の安全保障の二つの柱に加えて、**連帯**という第3の柱の必要性を提唱。

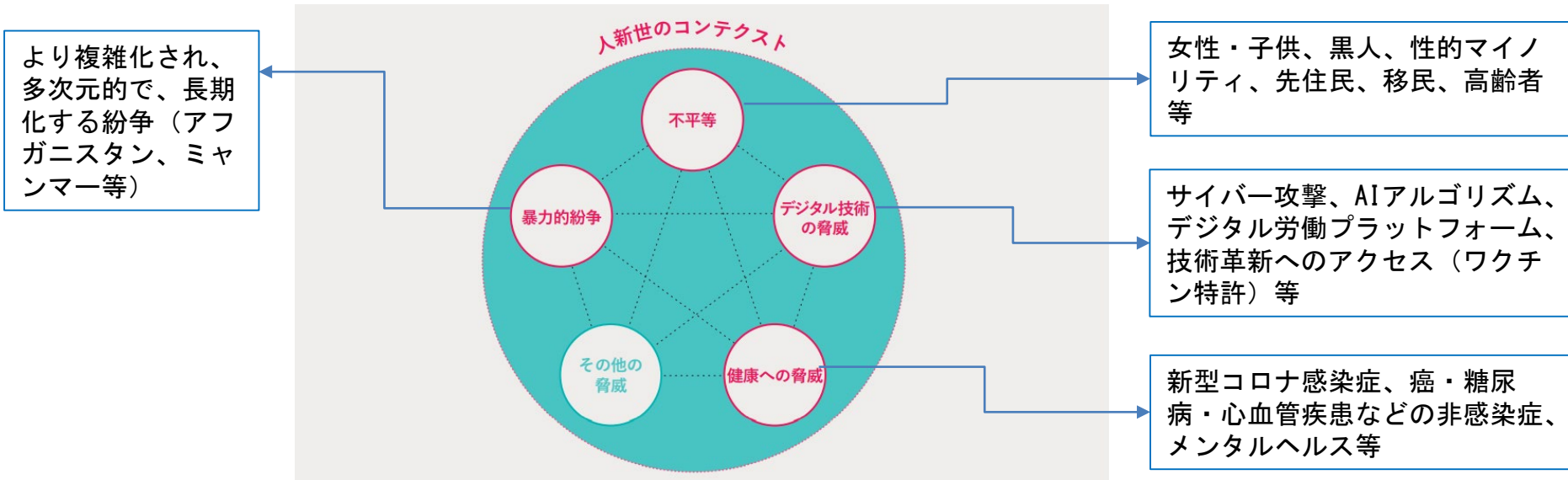
■これらの脅威は相互に関連しており、政策決定プロセスにおいては、人間の**主体性**を中心に置いて、保護・能力強化・連帯を推進するという新たな時代の人間の安全保障アプローチが効果的な政策枠組みとして提言。

(注)「人類の時代」という意味の新しい時代区分。人類が地球の生態系や気候に大きな影響を及ぼすようになった時代を指し、現在である完新世の次の地質時代を指す。

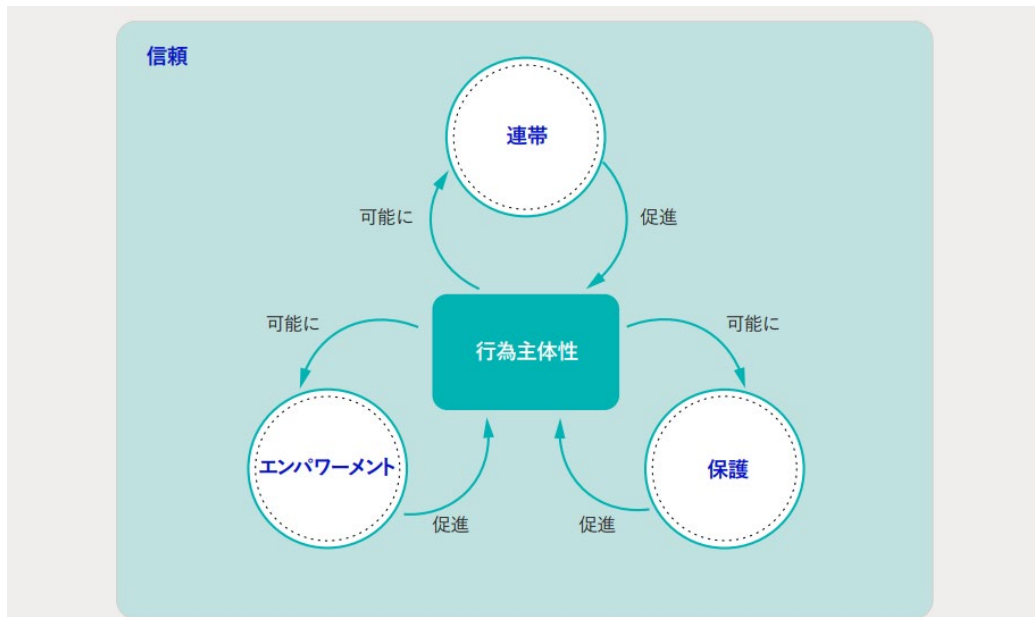
今後に向けて

■2月8日のグローバル・ローンチを皮切りに、UNDPが各地域で発刊イベントを行う予定で、日本でも改めて発刊イベントが行われる予定。日本政府としては、UNDPと連携して国内外への発信に努めると共に、国際場裏において人間の安全保障の議論を活性化していく。

新たな時代の人間の安全保障アプローチ（特別報告書の提言）



これらの人新世における新たな脅威に対処する人間の安全保障アプローチ



図表の出典：人間の安全保障に関する特別報告書

第6章：新たな人間の安全保障の課題に不釣り合いな医療制度（主なポイント）

- 保健分野は人間の安全保障の中核であり、健康への脅威が人間の安全保障への最も重大な課題。
- 保護・エンパワーメント・連帯を結びつける新たな時代の人間の安全保障を前進させる上で、医療制度は最も有望な要素。
- 新型コロナワクチンへのアクセスの不均衡は、国家間の経済復興の乖離を生む主要な要因であり、適切な価格でのワクチンの分配に向けた国際協力が一層求められる。
- 健康への脅威は非感染症へとシフトする傾向が世界各地で見られる一方、多くの国で医療は感染症や母子保健を対象としており、非感染症には十分対応できていない点で、ギャップが発生している。
- 適切な価格で、包括的かつ公平な医療は、人間の安全保障にとって不可欠である一方、世界の多くの人々にとって、医療は依然として法外な値段であり続けている。
- 人間の安全保障の向上には、カバレッジを越えて医療の質と公平性の向上が必要。国民皆保険（Universal healthcare）は、保護・エンパワーメント・連帯を通じて人間の安全保障を前進させる戦略であり、2030アジェンダにより示されたより幅広い国際的コンセンサスに直結する。
- 医療におけるユニバーサル主義を計る指標として、ユニバーサル主義の概念に、効果的なカバレッジだけでなく寛容と公平性を加えた、Healthcare Universalism Index（HUI）を導入。
- 新たな国際枠組みの議論が進められる中、保護・エンパワーメント・連帯の3つの柱からなる新たな時代の人間の安全保障に焦点を当てて、医療における普遍性の原則を確認し、健康を損なうグローバルガバナンスの機能不全に取り組むことが求められる。